

### \* 井上四郎氏の遺品 活動鏡(立体眼鏡)の寄贈

今まで非常に貴重な資料を提供くださった、元東京天文台職員井上四郎氏のご遺族のお孫さんから、今回も非常に珍しいものをアーカイブ室にご寄贈いただいた。

今回ご寄贈いただいたのは、

- 1) 書籍「最新科学講座 1」
- 2) 活動鏡(立体鏡) 及びその写真 23枚
- 3) 非常に珍しい容器に入った棹秤

である。今回はそのうち、2)の活動鏡を紹介しよう。

まずは、写真1をご覧ください。眼に当てる部分は漆塗りである。

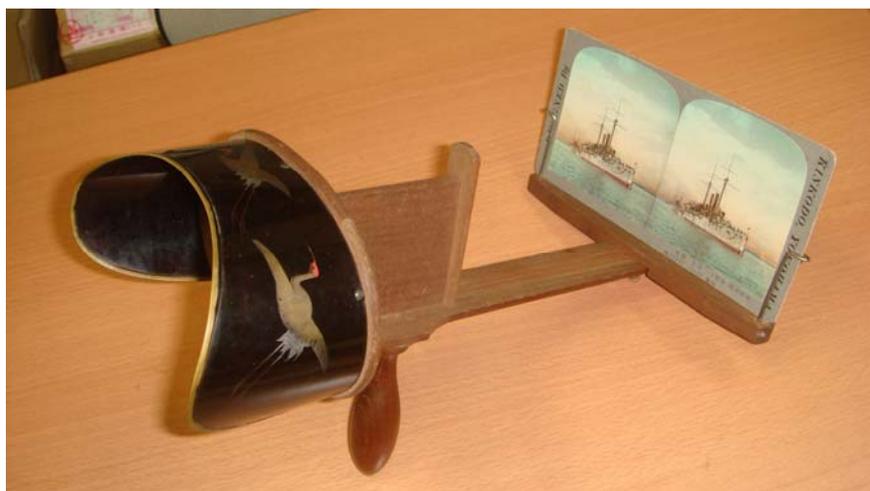


写真1 立体鏡の全体像

写真1で見るように、手で持つ取っ手があり、目の前に顔に沿って覗く部分は顔の曲面になっており、漆塗りである。左右の眼の視野をさえぎる板があり、23cmほどの先端に立体視用の2枚の写真が一枚の台紙に貼られたものを差し込むようになっている。



写真2 眼で覗く部分

眼で覗く所には、2枚の凸レンズがあり、容易に立体像が見えるようになっている。視力の違う人のため、写真は前後に移動できる工夫がなされている。

立体に見える原理は、人間は、目が左右に離れて二つついていて、左目で見ると右目で見るとは、角度が違うため少し違った像が目に入ることになる。目のかわりにカメラで左目用の写真と右目用の写真を目の間隔だけ離れて撮れば、左右の目で見たと同じ像がそれぞれ写真として得られる。そして平行法といわれる立体視は、それぞれの写真を目の間隔だけ離しておき、遠くにピントを合わせるように、左目で左目用の写真を、右目で右目用の写真を同時に見ると、立体的な像に見えるのであるが、このときレンズを用いると意識しなくても遠くにピントを合わせることになるので、楽に立体視ができる。

今回ご寄贈いただいた立体鏡には、23枚の2枚組の写真台紙に貼られたものが23枚あったが、裏に輸入元の本社が書かれたもの、製造元が書かれたもの、何も書いていないものの3種類があった。輸入元の本社が写真3、製造元の本社が写真4である。



写真3 横浜の輸入会社名前が入った裏面



写真4 日本橋の製造・発売元の名前が入った裏面

これらには、年号が入っていないが、電話番号が横浜で電話局が一つで3桁のみ、日本橋のものが本局の3桁のみということから、相当に古い時代のものと思われる。

恐らく大正、昭和初期のものであろうから、当時の様子を知る一助にもなるので一緒に送られてきた立体写真を紹介する。写真5～写真13。



写真5

Yokohama, Japan.



Sold only by T. Finami.

Sold only by T. Finami.



Yokohama, Japan.

Pilgrim Returning From M.T. Fuji.

Osaka Japan



Made by Seiyuisha.



687 岩之具二(四勢伊)



822 燈燈崎岬大(國總下)



889 場浴水海岸湯號大(州相)



583 流上川柱(郡京)



1066 磯の川戸江(京東)

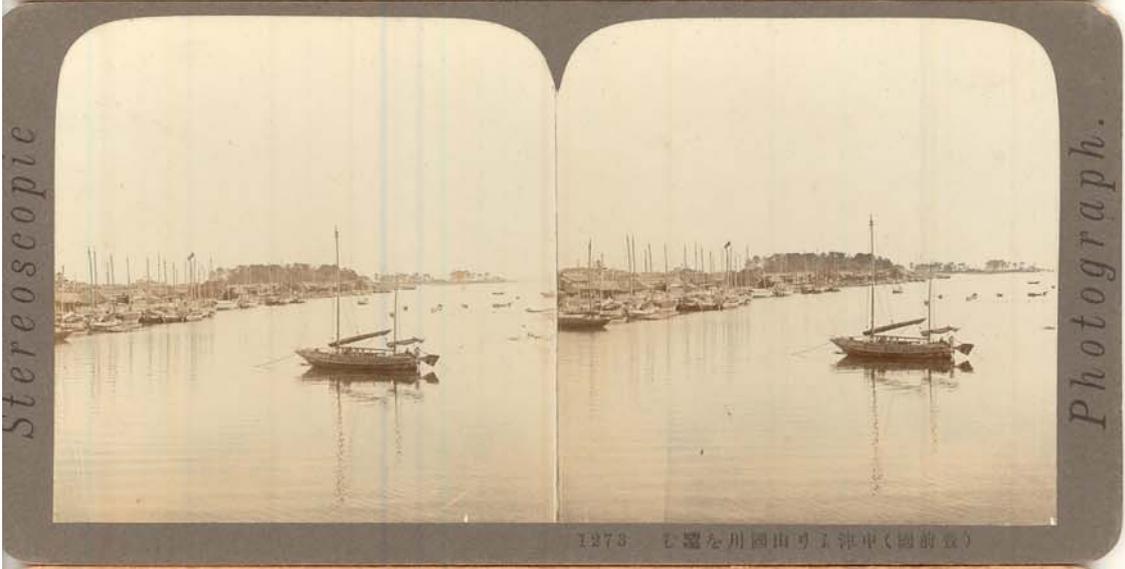


車貨と車廻機るせ落塵に神川橋六(崎川)道海東





THE rock of Mt Myogi, Nakasendo.



1273 碓氷を川國山ヨリ海中(碓氷)





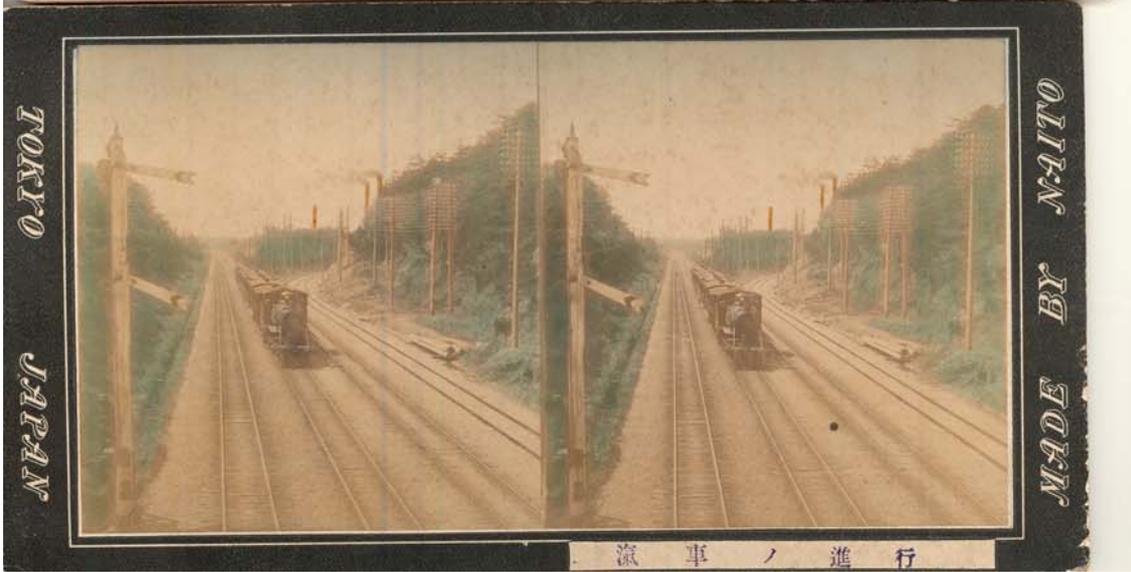
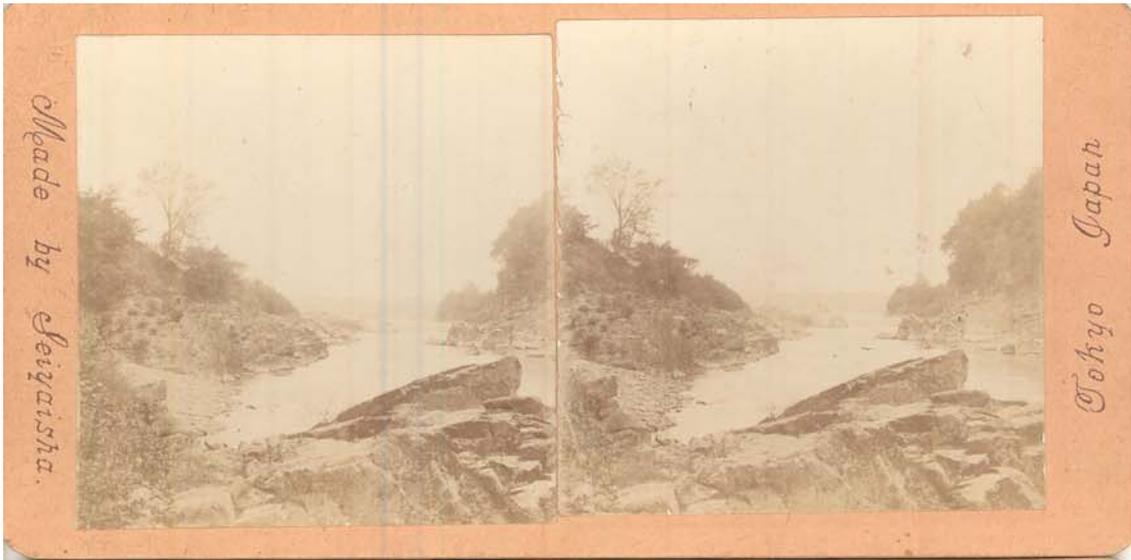


写真12

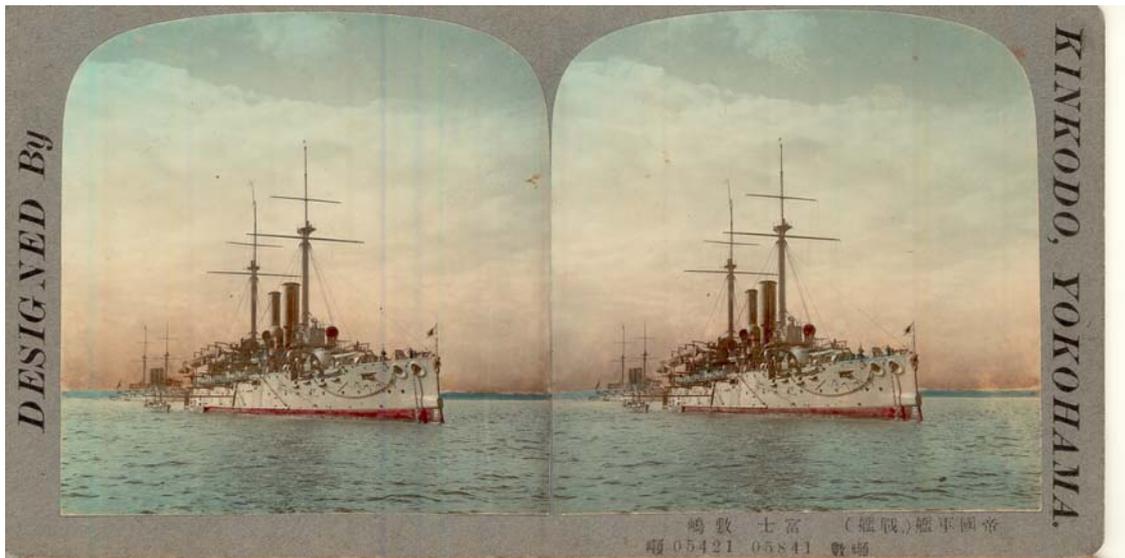


写真13

写真14は覗いている様子である。



写真14 立体鏡を覗いているところ